

# 令和6年度第3回 くらし部会 議事録

日時：令和7年2月7日(金) 10:00~12:00

場所：市民会館 301 会議室

参加：19名

## 1. 開会のあいさつ

## 2. 【協議】

### ① 来年度医療的ケア児の受け入れ等の課題

(中種子町・梶原氏)

現在18歳、特別支援学校高等部3年生に超重度の医療的ケア児が在籍。卒業後、平日の受け入れ先を検討している。医ケア会議を3回行い、本日4回目が開催される。母の希望は、月～金まで毎日生活介護に通所、事業所も変えながら利用したい。しかし、医療を必要とし、気管切開(喀痰吸引)、腸閉塞(排便コントロール)、胃ろう(経管栄養)等、対応できる所でなければならず、看護師や研修を受けた支援員の配置が難しく受け入れは簡単ではない。現状では、あかつき園での受け入れ可能な日数は週1回。看護師のいるタイミングで利用できる見込み。週1回しか利用できないという課題が上がっている。情報共有しながら、できる事を探し受け入れ体制が広がっていければと思う。

(あかつき園・山成氏)

特別支援学校の実習ですが、送迎は母。到着してすぐに部屋に入る、大体寝た状態、昼夜逆転が当たり前。そこから医療行為を1時間位かけて行う。その後、生活介護の活動に参加させて欲しいと母からの要望もあり、参加させてなるべく起こす(覚醒)ようにしている。その後、昼食(経管栄養)午後からも、なるべく起こしスキンシップをしながら活動に参加し、3時には母が迎えに来る。という感じです。医療的ケアをする上で、看護師であれば誰でもいいわけではなく、ある程度研修を積みながら慣れていく必要があり難しさがある。支援員の方も喀痰吸引の研修を3名受講中。喀痰吸引ができる支援員を増やしていきたい。また、来週から、特別実習という形で受け入れます。今回は、訪問看護のガジュマルから入浴指導を行ってもらい、特殊浴槽での入浴でできるようにしていきたい。4月から先の所、現状では週に1回の利用が限度かと考えている。

(議長・松岡氏)

この課題については、今後もくらし部会の方でも取り上げて行きたい

### ② 生活介護 WG の設置と研修企画

(事務局・高木)

来年度から生活介護を構成員に入れ、課題の抽出やスキルアップをしていく予定(P.3)

現在は、サービス管理責任者を集めて意見交換し、情報収集している(P.4)個別支援計画作成の事について意見交換した。

- 個別支援計画作成はどの事業所も苦労していた。立てた計画に自信が持てないという声もあった
- 人材不足、人材育成、スキルアップが課題
- 高齢化、重度化が進み終末ケアの必要性も感じる

生活支援員に対して『強度行動障害の基礎的な研修』をして欲しいと、事前に提案があり、来年度実施をしていく予定。事例検討など困難なケースの対応や学びの場、そこから見えてくる課題の抽出ができるようなWG(ワーキンググループ)を作り進めていきたいと考えている

(議長・松岡氏)

個別支援計画等、利用者さんが多くて大変だと思う。私の事業所でも、個別支援計画を作る職員が少ないので、まずはやってみないといけないから、サビ管が最終確認を行いながら、支援員できるように進めている。

### ③ GH 世話人研修会の開催方法について

(事務局より)

グループホームに関しても、サビ管との意見交換会を開催している(P5~6)

- 防災、緊急時の体制整備はBCPの作成が進んでいる
- 地域連携推進会議が来年度から義務化。グループホームと地域の繋がりや外部の目

- 地域連携推進員の名簿が欲しいと意見があったが、(P7)資料にまとめてある構成員が、地域連携推進員となるので確認する

グループホームの事に関して、生活介護のWGと同様に、そういった1つ1つの事を整理して組織化し、スマートな暮らし部会の開催をしていきたいと考える(P8 暮らし部会下部組織図参照)

<検討事項>

- グループホーム WG、7事業所のうち協力事業所を選抜。1 事業所、または2事業所(代表と副で次年度繰り上がり交代)、暮らし部会への代表施設として参加する形。世話人研修会も WG の中で話し合い、協力事業所と一緒に企画すると充実したものになると思うがどうだろうか？

(相談あかつき・原崎氏)

今日、グループホームの参加が少ないので、欠席の事業所にも確認をとって意見をまとめた方がいいのではないかと

⇒改めて詳細を全事業所に伝え意見をもらう

他WG(ワーキンググループ)について、生活介護WGの内容は、意見交換と情報共有、研修の企画でグループホームと同様です。会議の参加は、法人の代表が出席しているので、フィードバックしてもらえば無理には求めません。障害者の性WGは、現在屋久島を含めて活動している。当事者勉強会も包括的性教育と幅も広がっているので、内容を検討しながら開催。その内容を部会で報告したい

#### ④ ピアサポーターの働きと活用

(ナカポツ・鎌田氏)

昨日2月6日(木)14時~ピアサポート交流会を開催した。参加者は支援者を含め6名。ピアサポーターの大崎氏を講師に迎えお話しいただいた。種子島にはピアサポーターが1名しかいないので「仲間が欲しい」と話が出た。参加者1名「私もやってみたい」と興味を示す。ピアサポーターが増えていくといい。当事者同士語れる場があまりないので、他の事業所でもあるといいなと思う。

(ピアサポーター・大崎氏)

30年前位から精神病院に通院していて、2年前からピアサポーターを取得し研修や会議に参加させてもらっている。先日のピアサポート交流会では、最初は固い表情で話しづらい感じでしたが、話していくうちに表情や言葉がでてきた時、やりがいを感じた。「仲間が欲しい」と言ったら、こういった仕事がしたいという人がいたので、一緒にやっていけたらと思う。私が力を入れている所は、自分がどん底に落ちた時の這い上がり方。落ちた時と這い上がる時の時間の差。落ちるのは早いけど、這い上がるのは何倍も時間がかかる事を経験したので、本当の自分と向き合いながら、物事をマイナス思考ではなく、プラス思考で考えていく事を伝えていきたい。今後ともよろしくお願ひします

(事務局・高木)

今回活躍の場があった事嬉しく思う。部会にも参加し、顔を覚えてもらって、人柄もとても一生懸命な方なので、活躍の場が増える事を期待している

(議長・松岡氏)

大崎さんは、実はグループホームの世話人をしている。当事者でないといけない細かい事、すごく気が付いてくれて。とても明るい性格で、落ち込む時は早い。時々落ち込む事もあるけれど、世話人として利用者さんと触れ合っていると元気が出て、とても活躍してくれている。他の事業所からでも研修会とか活躍の場が増えていくといいと思う

#### ⑤ 地域移行地域定着推進会議で見えてきた地域の課題(熊毛支庁より)

(熊毛支庁・二石氏)

資料(P9)参照 すぐに解決できない課題も多いですが、他機関や地域住民との連携協力等、今後必要な取り組みが重要であると感じている。取り組みについては、今後暮らし部会で協議し、行政に声かけをお願いする等、できそうな事から進め、課題が減らせるように取り組んでいただけるようお願いいたします。

### 3. 【講話】

『障害者を地域で支える仕組みづくりを考える』  
～古田校区、繋がり支え合う 10 年の地域づくり～  
古田校区長 窪田良二 氏



※YouTubeにて限定配信



<https://youtu.be/ma9TVrHTcjQ?feature=shared>